

水城跡の機能を考えるシンポジウム

<再考>水はどこに貯められたのか？

主旨および内容：

水城跡の貯水は、かつて堤上流側とされていた。昭和40年代に福岡県、九州歴史資料館により下流右岸側に幅60mの濠が確認されて以来、下流側に貯水しているということになっている。一方で左岸での濠の状況は複雑で、船着き場らしい遺構や西門より西側に濠は確認されていない。また、日本書紀の記す「大堤を築きて水を貯へしむ。名けて水城と曰ふ。」の「堤」は城壁を示すのであろうか。中国の太湖大堤は上流側に貯水し、かつ下流側にフィッシュポンドがある。

本シンポジウムは、これらのことを土木工学、歴史学等により検討し水城跡の実像に迫ろうと企図するもので、これにより水城跡への衆目の再び集まらんことを願うものである。



▲ 特別史跡「水城」鳥瞰図（九州歴史資料館提供）

日 時：平成23年1月29日（土）13：30～16：05

場 所：太宰府市中央公民館多目的ホール（定員 250 名）

アクセス：http://www.city.dazaifu.fukuoka.jp/kominkan_t/kominkanshisetu.html

参加費：無料

プログラム：13:30～13:40 開会行事（開会、来賓挨拶）

13:40～15:10 基調報告

①林 重徳氏（佐賀大学名誉教授、専門：地盤工学）

②井上信正氏（太宰府市教育委員会、専門：古代史）

③島谷幸宏氏（九州大学大学院教授、専門：河川工学）

15:10～15:20 休憩（ステージ準備）

15:20～16:00 討論 基調講演者

16:00～16:05 閉会行事（閉会、NPO 法人水圏環境研究所理事挨拶）

主 催：NPO 法人水圏環境研究所

九州大学大学院工学研究院附属循環型社会システム工学研究センター

後 援：太宰府市・太宰府市教育委員会・NPO 法人南畑ダム貯水する会

お問い合わせ先：水圏環境研究所宛まで（TEL:092-921-7150 E-MAIL: caer@marble.ocn.ne.jp）